学ぶ喜びを

総長
外間（ほかま） 寛（ひろし）

新入生諸君、入学おめでとう。受験勉強から開放されて、晴れ晴れとした気持ちで入学の日を迎えたことでしょう。これから新しい大学生活が始まります。第一歩を踏み出す前に、自分はなんのために大学にきたのか、ひとりで考えることから始めましょう。いまは人生の目的を定めるのが難しい時代です。でも、目的のないその日暮らしの生活では、人生は空しいでしょう。なにか希望をもって、その目標達成のために自らを規律し、努力を重ねる日々を送りたいものです。諸君のなかには、なんのためにと自問してみて、確かな答えを見出すことのできない人もいるでしょう。今はできなくても、やがてその答えが得られるように、自分でよく考えましょう。大学生活は、なによりも先ず考える生活です。

大学は、高校までの学校とは違います。大きな違いのひとつは、大学が多元的な社会であるということです。中央大学には六つの学部があって、教師も学生も含めて、専攻を異にする沢山の人々が一緒に学んでいます。学生には、一般の入学試験に合格して入学した者のほかに、スポーツ能力に優れているために入学を許可された者、帰国子女、あるいは外国からの留学生など、多様な経歴の人々がいます。また思想の面でも、自覚的に保守的な人、革新的あるいは急進的な人など、さまざまです。大学は、このように志も、経歴も、考え方も多様に異なる人々が、お互いの違いを尊重しながら、自由に交わり、自らの知見を拡げることのできる社会です。自分の狭い殻に閉じこもることなく、心を開いて多様な経験から学ぶように努めたいものです。しかし、ただ気軽に他人と付き合えばよいというわけではありません。自分の志す学問を大切にしましょう。大学は、学問の府であることを忘れてはなりません。

中央大学は、どの学問の分野においても、日本の大学で期待し得る第一級の専門教育を提供することができます。各学部はそれぞれ実に魅力ある教授陣を整えています。しかし、教師が優れているというだけでは、よい大学教育が行われる保障にはなりません。教師と学生との間で絶え間なく真剣な対話を続けることによってはじめて、大学教育はその実をあげることができます。もちろん学生は、はじめから教師と対等な議論ができるわけではありません。どの学問の分野にも、長い歴史と豊かな蓄積があり、そしてそれぞれに固有の約束事があります。まずは講義を聴き、教科書を読んで、謙虚に学ばなければなりません。でも講義で聴いたこと、教科書に書いてあることだけを勉強するのではなく、聞かなかったこと、書いてないことまでも自ら探求して、教師に食って掛かるくらいの意気込みが必要です。学生に鋭い質問を浴びせられて、的確に答えることができず、困惑することがあっても、それは教師にとってこの上もない喜びです。それによって教師も深く学ぶことができます。教師はなんでも知っているわけではありません。分からないことに比べれば、分かっていることは米粒ひとつの大きさにもならないでしょう。そもそも完成し、完結した学問はひとつもありません。教師も学生も、互いに学びつつ真理を追い求める。それが大学です。

真理の追究というと、なにか現実離れがして、凡人には能わぬことと思うかもしれません。そんなに難しく考えなくてもよいでしょう。専門の学問に真剣に取り組むということです。世間の利害関係にとらわれず、一歩退いて、それぞれの学問を通じてどこにでも通用する正しいこと、人間にとって大切なことを求めるのです。その心がけがあれば、学ぶうちに、学ぶことの喜びを発見するでしょう。

中央大学は、１２０年の歴史と名誉ある伝統をもち、多くの面で国家・社会に大きな貢献を果たしてきました。新入生諸君は、中央大学の一員となったことに誇りをもち、意義ある大学生活を送り、豊かな学力を身につけるように心掛けてほしいと思います。